



「朝の読書」を効果的にするために

以前の学校で職員に配布したプリント(2003年度のもの)を元にして宇出津編に直してみました

はじめに

本校では「朝の読書の時間」を設けて、静かに本を読む時間を作ってきました。職朝もなくして取り組んでいる学校はまだそんなに多くないようです。

が、しかし特設時間を設定して(10分/日×5日=50分)やっているだけの「読書力」はついているのでしょうか? そもそも「朝の読書」とは何なのか?

「朝の読書4原則」とは

「朝の読書」を取り入れると学級が落ち着く、高校生の遅刻が減るなど、全国で様々な反響をもたらしました。一応、言い出しっぺは林公(はやし・ひろし)という高校の先生らしいです。

そのやり方には「朝読4原則」というのがあります。

その4原則というのは、

みんなでやる

毎日やる

好きな本だけでよい

ただ読むだけ

ということです。逆に言うと、これを守らないと、「朝読」の効果は半減するどころか、かえってマイナスに働くこともあるかもしれません(本嫌いを助長するとか)。

「4原則」の原点は

この「朝読」は、マサチューセッツ州ゲートウェイ公立中学校が学校ぐるみで取り組んだ「黙読の時間」の実践にヒントをもらっているそうです。

マクラッケン夫妻の「黙読の時間四原則」とは、

- (1)一定の時間だけ、読ませること。親や教師はそれぞれのクラスや家庭に『黙読の時間』を導入し、子供の熟達に応じて調整すること。教室の場合は、10分ないし15分が望ましい。
- (2)読むための素材は、子供自身に選ばせること(本、雑誌、新聞など)。その時間内はほかの読み物と取り替えないこと。素材はすべて事前に選んでおくこと。
- (3)教師や親も、読むことで手本を示すこと。これは何よりも大切なことである。
- (4)感想文や記録のたぐいはいっさい求めない。

というものです。

これを林先生が分かりやすく実践したのが、上の「朝読4原則」というわけです。

どんな実践にも言えることですが、何かを「まねる」なら、その「考え方」までまねないと効果は上がりません。縦割り、自問清掃しかり…。ふり返りや点検、そして再構築が必要な所以です。

具体的な取組方（担任していたころの尾形のやり方を例に）

1 みんなでやる

うちの学校は職朝がありません。ですから教室へ行って、是非、子どもたちと一緒に本を読みたいものです。子どもたちが静かに本を読んでいるのに、教室の花に水をやったり、子どものノートの○付けをしたり、宿題点検をしたりしないで、一緒に自分の選んだ本を読むといいです。

職員室でも一斉に読めればいいのですが、電話があつたりしてなかなか難しいかもしれません。ただ、無言の時間を作りたいと思います。林さんの実践では、その時間帯は、事務室も含めて静かに読書をしたようです。学校全体がしんと静まりかえる時間だったようです。

2 毎日やる

本校ではちゃんとできています。ただ、「1」とも重なりますが、学級の係活動の時間になっていたり、委員会の活動があるからといって遅れて読書に合流したりすることを「当たり前」「特権」のように思っている子もいるようです。私は、貯金日でもちゃんと時間内に合流させようと思ってきました。そのためには、「貯金日の日は、学校に来たらまず貯金を出す」という指導も大切になります。

3 好きな本だけでよい

「読むだけでいい」といってもマンガはどうするか悩みました。

で、私の結論は「マンガ以外の本（歴史マンガなども含む）を読む」ということにしました。これについては、林先生も同様の考えのようです。

図書室の本や学級の本、自分の本を読んでもらいました。家に持って帰ると本を忘れてくることもあるので、朝読の本は、朝読専用にして教室（机の中）に置きっぱなしにしました。

選ぶ本は、最初、担任が子どもと一緒に選びました。貸し出しも、担任がしました。これはすべて休み時間にやっていました。

また、途中で読み終わっても、その時間はたち歩かないことも約束しました。本には、目次や解説、奥付けなどもあります。そう言うところを読んで待っているように言っておきました。ふだん読まない場所を見るだけでも、いろいろな発見ができるからです。

4 ただ読むだけ

教師はこれができないのです。すぐに感想などを求めたがります。「マンガを嫌いにさせるにはマンガを読んだあとに感想文を書かせると良い」と大阪国語の会の故山本正次先生がおっしゃっておられました。朝読は、「ただ読むだけ」です。だから、子どもたちは安心して読むことができます。いわゆる「ふつうの読書を学校の 10 分間を使ってやっている」という状態だというわけです。

ただ、私は、学期に一回、読んだ本の題名を学級通信で紹介しました。これくらいなら、友だちの読んでいる本のことわかって、おたがいに刺激になるかもしれません。

本校では、読書カードをつけています。これをどう活用するのか（ただつけていても何にもなりません）について、考えておいた方がいいでしょう。

【参考文献】

○林公著『朝の読書実践ガイドブック』（1997，メディアパル）

○穴見嘉秀編著『朝の読書』がもっと楽しくなるアイデア集』（2001，学事出版）

朝の連続小説

毎朝、読み聞かせを実践してる教師もいます。私も朝の会の一部を使って「朝の連続小説」と称して 5 分間くらいの読み聞かせを続けていたことがあります。子どもたちは続きを聞くのをとても楽しみにしていました。授業時間が早く終わった時などにも、続きを読んであげました。学級内で「内容を共有できている本」があるというのは学級づくりにも役立つことがあります。

シリーズ物の最初の 1 冊を読んでやると、率先してそのシリーズの他の本を借りるようになります。まさに、読書指導になるのです。本について話題になるっていいですね。昨夜のドラマだけでなく…。